「学連の一員として」

　東北学生卓球連盟　副幹事長　大畑建樹

　この度は第8回「日学連アゴラ」に文章を掲載していただくこと、感謝申し上げます。

　このような形で文章を書かせていただく機会は初めてで、何を書くべきかと内容が定まりませんでしたが、私も東北学連副幹事長ということでこれから約2年間学連に関わっていくため、学連の一員になって感じたことを書かせていただきたいと思います。

　学連の一員になって特に感じたことは「大会の開催」には多くの方が関わり協力してくださっている、ということです。これは当たり前といえば当たり前のことなのですが、私自身が感じていたよりもその数はずっと多く、大会の会場関係者の方々やプログラムの印刷会社の方々、大会に参加される選手の方々やスポンサーの企業の方々など挙げればきりがないほどで、自分もそれを支える一人にならねばならないのだと大会運営を重ねるたびに実感致します。また、運営側の立場に立つことで、今までは多くの仕事を他の方々にやってもらうことで大会に参加し試合を行っていたということが感じられ、自分の見えないところで他の方々が動いてくださっているという、当たり前のことを深く認識する貴重な機会を得ることもできました。学連には周りの流れで入ることになったのですが、様々な経験をさせていただき今では学連の一員になれてよかったと思っています。

　東北地区の大会でも新型コロナウイルスにより多くの棄権者が出てしまったりと、なかなか例年通りとはいかない現状ですが、大会開催に関わってくださる多くの方に報いるためにも、精一杯頑張らせていただきますので、これからも何卒よろしくお願い致します。

　最後までお読みいただきありがとうございました。